

勝瑞城シンポジウム

阿波三好家と三好本宗家



開催日時：平成30年3月10日（土）

開催場所：藍住町コミュニティセンター 町民シアター
（藍住町合同庁舎4階）

主 催：藍住町教育委員会

勝瑞城シンポジウム

－阿波三好家と三好本宗家－

【主 催】 藍住町教育委員会

【日 時】 平成30年3月10日（土）

【場 所】 藍住町コミュニティセンター 町民シアター
（藍住町合同庁舎4階）

【日 程】

12：30～ 受 付

12：50～13：00 開会行事

13：00～14：00 講演 1

「阿波三好家と三好本宗家」

講師：天野忠幸 氏（天理大学准教授）

14：10～15：10 講演 2

「三好本宗家と畿内の城」

講師：中西裕樹 氏（高槻市立しろあと歴史館館長）

15：20～16：30 パネルディスカッション

「平成の三好ネットワーク～阿波と畿内のかけはし」

コーディネーター：小林義孝 氏（摂河泉地域文化研究所）

パネラー：天野忠幸 氏、中西裕樹 氏

重見高博（藍住町教育委員会主査）

【問い合わせ先】 藍住町教育委員会社会教育課

〒771-1292 徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前 52-1

TEL.088-637-3128 FAX.088-637-3153

E-mail syakaikyoku@ aizumi.i-tokushima.jp

阿波三好家と三好本宗家

天理大学 天野忠幸

はじめに

○戦国時代の兄弟

兄弟並び立たず

織田信長と信勝、長尾晴景と景虎(上杉謙信)、玄広恵探と今川義元

養子に行き本家を支える

北条氏政と大石氏照、藤田氏邦、佐野氏忠、上杉景虎

毛利隆元と吉川元春、小早川隆景、穂田元清、梶杜元秋、出羽元俱、天野元政、末次元康、小早川秀包

長宗我部元親と吉良親貞、香宗我部親泰

別家を立てて本家を支える

武田信玄と武田信繁、武田信廉

⇒三好氏は…

別家を立てる実休(之相、之虎) ⇔阿波三好家

養子に行って本家を支える安宅冬康、十河一存

1、阿波三好家の成立と構造

○三好長慶の戦い

天文18年(1549)父の仇細川晴元に江口の戦いで勝利

天文22年(1553)実休が細川持隆を討つ、長慶が将軍足利義輝を追放

永禄3年(1560)河内・大和を平定、若狭・丹後へ侵攻

→対将軍政策の充実、近畿と四国にまたがる領国の支配体制の整備が必要

○三好本宗家

三好長慶—長男義興—養子義継：相伴衆、桐御紋

越水城、芥川山城、飯盛城 …政治

堺(法華宗顕本寺、臨済宗南宗寺)、京都(臨済宗大徳寺聚光院) …経済

重臣は松永久秀、三好長逸、三好宗渭、石成友通

旧主細川氏綱、細川信良を保護

→将軍と対決、近畿を支配

○阿波三好家

三好実休—長男長治—次男存保：相伴衆

勝瑞館、高屋城

堺(日蓮宗妙国寺)、勝瑞(臨済宗龍音寺、日蓮宗本行寺)

重臣は篠原長房「新加制式」、加地盛時、篠原実長

旧主細川真之、足利義維・義栄を保護

→畠山氏と対決、四国と河内南部を支配

⇔細川京兆家と細川讃州家(阿波守護家)の関係を領域的により徹底

⇒相互補完関係で領国拡大

洲本会談と播磨出兵、実休の仇討としての教興寺の戦い

2、すれ違う両家

○長慶の後継者

十河一存と九条植通養女の子である重存（後の義継）

三好実休の子である長治・存保・神五郎から選ばず

○将軍義輝の後継者

三好義継が「義重」から「義継」に改名、将軍家の重宝「小袖」が朝廷から下賜

三好長治や篠原長房は足利義栄を擁立

○三好本宗家の分裂

永禄 8 年（1565）松永久秀 VS 三好三人衆、三好義継 + 篠原長房、足利義栄

永禄 9 年、三好義継、松永久秀、足利義昭、織田信長

VS 三好三人衆、三好長治、篠原長房、足利義栄

元亀元年（1570）、三好氏、本願寺、朝倉氏 VS 足利義昭、織田信長、毛利元就

元亀 4 年、三好義継、本願寺 VS 足利義昭、織田信長

※三好長治が篠原長房を殺害、十河存保が信長に対義継共闘を申しかける

信長は毛利氏との同盟を重視し拒否

⇒信長上洛前夜の畿内（「天下」）政治史を主導したのは阿波三好家

3、三好本宗家の名跡争い

○河内・和泉の三好氏勢力を糾合

天正 2 年（1574）十河存保が「三好」に改姓

天正 3 年、三好康長（当時は咲岩）が還俗し「康慶」に改名

○阿波三好家の滅亡と再興

天正 4 年（1576）12 月、細川真之に敗北、別宮で自害

信長は天正元年から細川信良を讃岐で支援

天正 6 年、三好存保が堺から勝瑞に下向

足利義昭・毛利輝元と連携、織田信長・長宗我部元親に対抗

○信長の四国政策

三好康長・羽柴秀吉の登用、長宗我部元親・明智光秀の苦悩

天正 10 年、信長は三男信孝を康長の養子とする

本能寺の変によって起こった中富川の戦い

○秀吉の四国政策

甥の秀次を康長の養子にし「三好信吉」

讃岐で長宗我部氏と戦う存保は「三好義堅」

天正 13 年（1585）四国国分、存保は「十河孫六郎」として讃岐へ

おわりに

○相互補完と分裂を繰り返す葛藤

三好政権成立の原動力、織田・豊臣政権を前に一致できず

参考文献

天野忠幸『三好一族と織田信長』（戎光祥出版、2016 年）

石井伸夫・重見高博編『三好一族と阿波の城館』（戎光祥出版、2018 年）

①-1『木戸太平氏所蔵文書』

当国徳政事、任実休御折紙之旨、令免許上者、不可有相違候、(三好 康長)尚孫七郎、加地

又五郎、篠原彈正忠可申候、謹言、(盛時)

永禄式

六月廿六日
千鶴丸(三好 長治)

塩屋惣左衛門尉殿

①-2『木戸太平氏所蔵文書』

当国徳政事、被成御免許通、被出御折紙上者、向後不可有相違由、可申旨候、(阿波国)

恐々謹言、

永禄式

篠原彈正忠

六月廿六日
実長(花押)

加地又五郎

盛時(花押)

三好孫七郎

康長(花押)

塩屋惣左衛門尉殿

②『森田周作氏所蔵文書』

定条々

一、高屋(河内国古市郡)在城二付而、各可成水魚之思事、

一、若子(三好 長治)様御幼少之間者、打置私之愚意、御家之為可然様二可致心持事、

一、或知音、或与力・被官人、各相背定旨不謂族在之時、寄親又者為縁者、乍知其違取育申沙汰事、

一、各諸事令相談之处、構私曲、勝手次第申噉事、

一、諸御公物等、各無同心处、号御訴訟令抑留事、付康長算用事、(三好)

一、公事、或喧嘩等出来之刻、縦死人雖在之、閑遺恨、以穩便相理、有様次第可相果事、

一、各之内万一不相構私曲、誤相破定儀在之者、為惣中達而可申事、
右条々、聊以不可有相違、若偽在之者、

日本国中大小(小)神祇、八幡大菩薩、殊氏神三十番紙、十羅刹女、天満大自在天神可罷蒙御罰者也、仍起請文如件、

永禄五年
篠原玄番助(番)

十一月廿九日
長秀(花押)

加地六郎兵衛尉

盛時(花押)

三好山城守

康長(花押2)

矢野伯耆守

虎村(花押)

吉成出雲守

信長（花押）

三好備中守

盛政（花押）

三好民部丞

盛長（花押）

市原石見守

長胤（花押）

伊沢因幡入道

長綱（花押）

③『三浦講中文書』

就此表之儀言上、令披露候、一昨日阿州衆人数二万余、至中嶋着岸候、即明日者大略京都へ可有手遣候、三人衆・阿州衆都合其勢三万余可_レ在_レ之候、京都へ相働候、諸牢人在々所々輩可_レ討立候間、人数可_レ及四万之由候、先阿州衆先日罷上候処、摂州川原林之要害之輩、相支之様二見え候条、阿州衆罷上候、以其勢彼要害令破却、悉以討捕候、又茨木之城者、以調略、令合参候、京都へ被_レ討立候者、一統二可_レ相働之由候、於様体者、可_レ御心安候、猶其表之儀、切々御申肝要候、恐々謹言、

（元龜元年）

十月三日

（下間頼總）

証念（花押）

志賀

高嶋

三浦

衆中

④『寺尾菊子氏所藏文書』

就今度至四国差下条々、

一、讃岐国之儀、一円其方可_レ申付事、

一、阿波国之儀、一円三好山城守可_レ申付事、

（棟長）

一、其外両国之儀、信長至淡州出馬之刻、可_レ申出之事、

右条々、聊無相違相守之、国人等相糺忠否、可_レ立置之輩者立置之、可_レ追却之族者追却之、政道以下堅可_レ申付之、万端対山城守、成君臣・父母之思、可_レ馳走事、可_レ為忠節候、能々可_レ成其意候也、

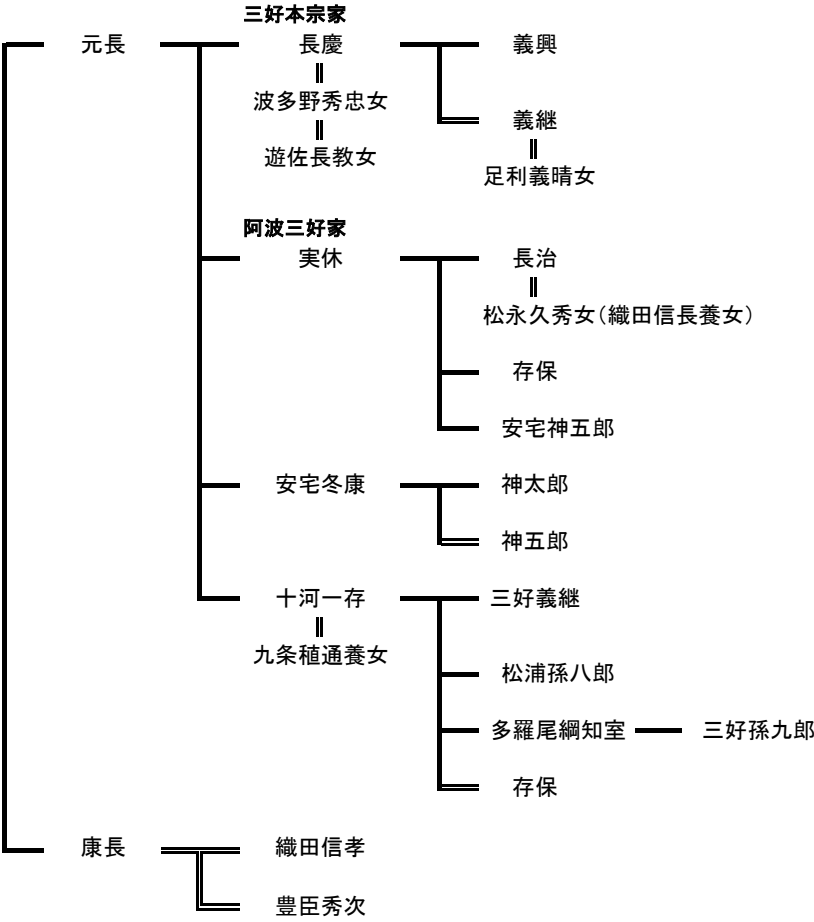
天正十年五月七日

（織田信長朱印）

（三好信孝）

三七郎殿

三好氏略系図





三好本宗家と畿内の城

高槻市立しろあと歴史館 中西 裕樹(なかにし・ゆうき)

1 はじめに

勝瑞では平地に営まれた城館を核とし、寺院や町場などが展開します。一方、畿内に進出した三好長慶は、やがて巨大な山城を居城とするようになりました。同じ三好氏でも、阿波三好家と三好本宗家とでは、拠点とする城郭の姿が大きく異なります。

→畿内での三好長慶の居城を取り上げ、周辺の事例をふまえながら、その特徴を立地や構造、町場との位置関係などから紹介します。

2 三好本宗家の城

○越水城(兵庫県西宮市)

三好長慶は、摂津・丹波の守護である細川晴元の下で台頭したが、天文8年(1538)には摂津国人らを率いて対立。和睦後に越水城へ入り、守護代級の人物として摂津国下郡(西部)で勢力を培う。【図1・2】

- ・前史…永正12年(1515)以降、細川高国の下で摂津国人瓦林政頼(正頼)が築いた城(高国の芥川城築城と同時期)。「西宮ヨリ八町北ニ小清水トテ小山ノアルヲ家城ニ拵ヘ日夜只此営計也毎日五十人百人シテ堀ヲホリ壁ヲヌリ土居ヲツキ矢倉ヲ上ケレハ鍛冶番匠壁塗大鋸引更ニヒマコソナカリケリ加之透隙ニハ連歌ヲ興行シテ月次モアリケリ夜々ハ古文ヲ学ヒ道ヲ尋ケレハ実ニ文武二道ヲ嗜ム人ニテソ有ケル」(『瓦林政頼記』)。

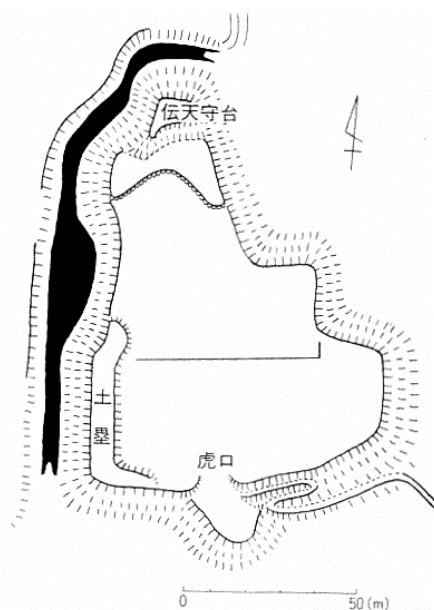


図1 越水城

(昭和10年頃 石割平蔵氏作図)

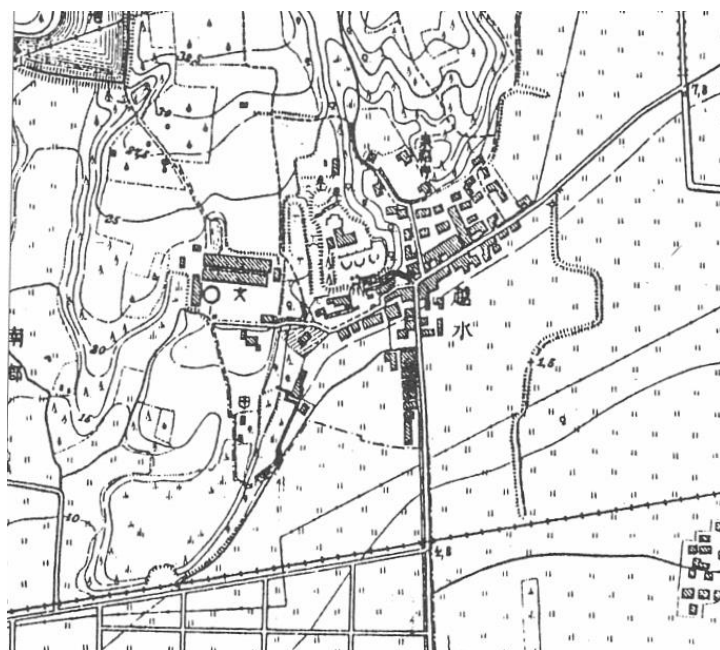


図2 陸地測量部一万分一地形図の越水城周辺

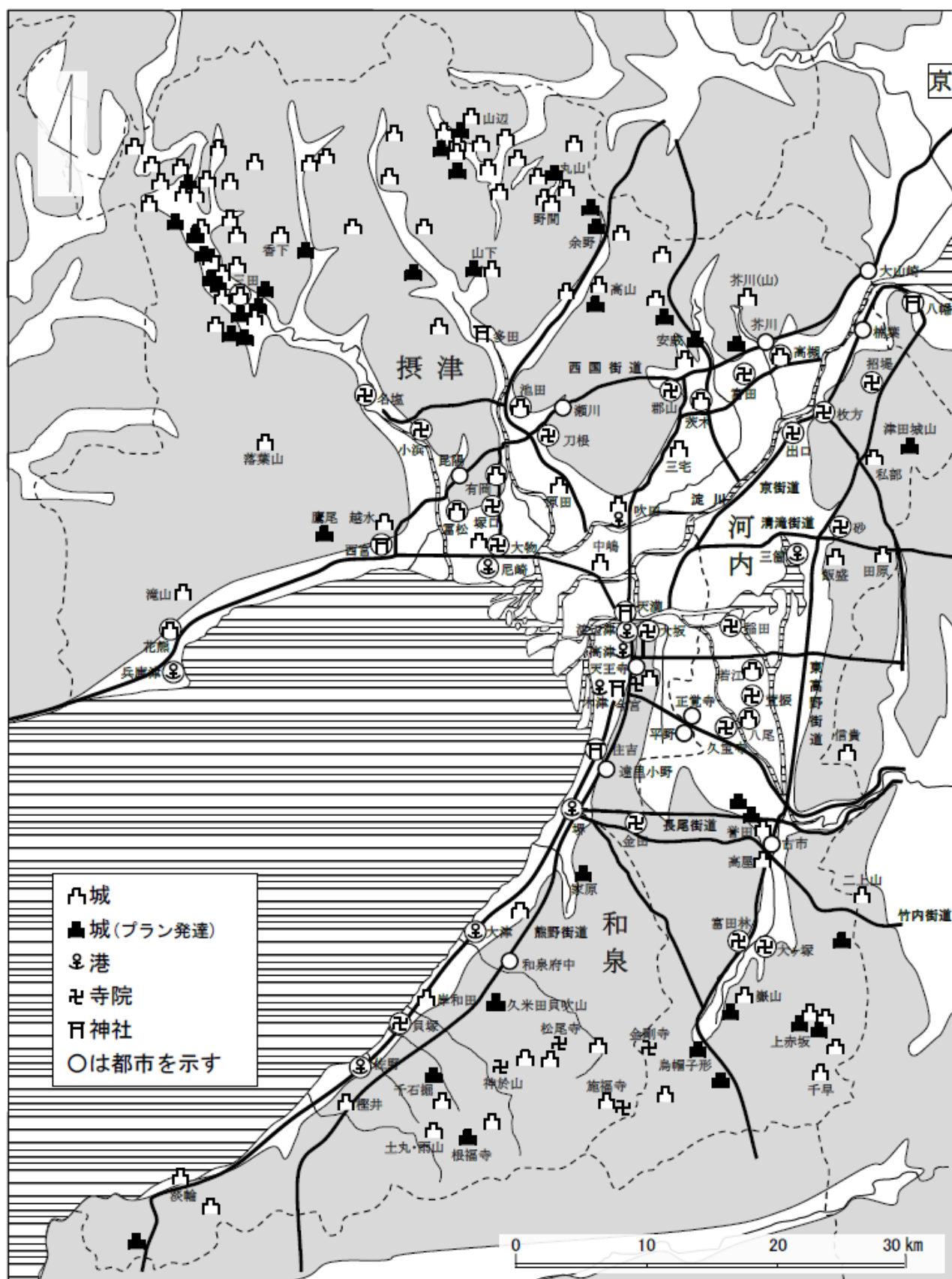


図3 戦国期大阪平野の主な都市と城館推定図 推定図

摂津・河内・和泉国の範囲に限る。藤田 実 2000『寺内町大坂(石山)とその地理環境』思文閣出版、大澤 研一 2001『中世大坂の道と津』『大阪市立博物館 研究紀要』33、仁木 宏 2006『戦国時代摂津・河内の都市と交通』『難波宮から大坂へ』和泉書院などを参照芥川山城跡 イラスト(中井均氏監修・香川元太郎氏イラスト)

- ・ **立地と構造**…麓との比高差約 10m の台地上に立地。城域は約東西 100m × 南北 140m。西宮側の台地縁辺部に位置し、北～西を堀切で遮断した巨大な館城の様相。約 1 km 離れて西宮の町場。南麓では摂津を東西に貫く道(後の西国街道)から西宮へ道が分岐。
- 【惣構】「Sogamaye」「市街地や村落などの周囲をすっきりと取り囲んでいる柵、または、防壁」(イエズス会が 1603 年刊行『日葡辞書』)

○芥川城(芥川山城跡。大阪府高槻市)

天文 22 年(1553)に三好長慶は芥川城に入り、三好政権の所在地に。永禄 11 年(1568)に足利義昭と織田信長が上洛に先駆けて入城。以降は「都の副王」和田惟政が在城。

【図 4】

- ・ **前史**…永正 12 年(1515)から翌年かけ、摂津・丹波守護の細川高国が築城。「当国ニ可然城郭無テハ不可叶トテ、国守ハ上郡芥川ノ北ニ当リ、可然大山ノ有ケルヲ城郭ニソ構ヘラレケレ、昼夜朝暮五百人・三百人ノ人夫、普請更ニ止時ナシ」(『瓦林政頼記』)。天文 2～5 年(1533～1536)、細川晴元が在城。政治折衝の場。摂津の「守護所」。
- ・ **立地と構造**…麓との比高差約 110m の三好山(城山。標高 182.69m)に立地。背後は丹波に至る北摂山地。城域が東西約 500m × 南北約 400m と非常に大規模な山城で、まとまった面積の曲輪が複数存在する連郭式山城。南面の谷筋に高さ 3 m 以上の城内でも最も大規模な石垣も。南に約 3.5 km 離れた場所に西国街道の芥川宿があり、細川氏(京兆家)は付近に饗応可能な寺院を確保。山麓に町場は確認されない。



図 4 芥川山城跡 復元イメージ(中井均氏監修・香川元太郎氏イラスト)

○飯盛城(大阪府四條畷市・大東市)

永禄3年(1560)、三好義長(興)に家督を譲った長慶が移る。以降の三好政権の軍勢は東の大和、伊勢へと向かい、最大勢力を築く。同7年に長慶が亡くなった城。【図5・6】

- ・前史…享禄4年(1531)以前に木沢長政が整備した山城。後に河内守護畠山氏(義就流)が入る。長政は畠山氏被官で細川晴元の配下でもあり、やがて「大和守護」を称するなど独自の権力化を遂げた。長慶は、同じく畠山氏被官から地域に権力を築いた飯盛城主の安見宗房を追って入城。
- ・立地と構造…麓との比高差約300mの飯盛山(標高314.4m)に立地。大和との国境が近く眺望に優れる。城域が東西約400m×南北約600mと非常に大規模な連郭式山城。東側を中心に急角度で立ち上がる石垣が多数分布。麓に京都～紀伊を結ぶ東高野街道、麓に大和につながる清滝街道。西麓の深野池は、大和川を介して大阪湾に接続。山麓に町場は確認されない。

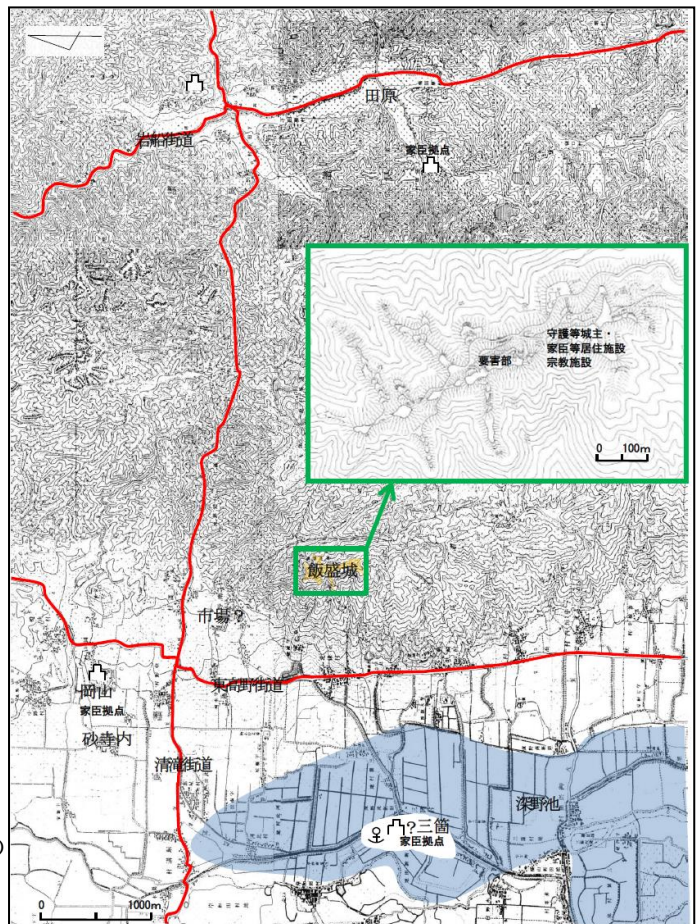


図5 飯盛城周辺の空間構成



図6 飯盛城跡 復元イメージ(中西裕樹監修・スズキ唯知氏 CG 作成)

3 特徴

○どんな城を選んだのか

国を治めるにふさわしい従来の権力が営んだ城を使う。

丹波 松永長頼(内藤宗勝)の八木城(京都府亀岡市)…守護代内藤氏

松永孫六の八上城(兵庫県篠山市)…小守護代波多野氏

大和 松永久秀の信貴城(信貴山城跡。奈良県平群町)…木沢長政

松永久通の龍王城(龍王山城跡。奈良県天理市)…国人の十市氏

河内 三好実休の高屋城(大阪府羽曳野市)…守護畠山氏

和泉 十河一存の岸和田城(大阪府岸和田市)…守護代松浦氏

→山城か否かは、従来の権力のあり方を踏襲。越水城、芥川城、飯盛城を含め、城郭と周辺の町場との関係も同じ。畿内での三好本宗家のオリジナルは、堺・兵庫津などの港町や寺内町など大阪平野周辺で当時勃興していた都市との関係。

○城はどのような場所だったのか

芥川城…天文 23 年(1554)に山城国乙訓郡(京都府向日市・長岡京市)の村同士の用水相論が当事者登城の上で裁定、永禄 2 年(1559)には近隣の郡家村と真上村(ともに高槻市)の水論が裁許。弘治 2 年(1556)には清原枝賢が儒学を講じ、連歌会も。永禄 6 年(1563)には、死の床について三好義興の招魂祭。松永久秀ら政権中枢の人々が妻帯で居住。

飯盛城…「三好殿は飯盛城に住み、そこにはこの河内国主の家臣である約二百名のキリシタンの貴人」がおり、「その領国でもっとも堅固な城の一つなので、当城に留まり、上記の貴人(高貴な家臣)たちをきわめて信頼していますので、彼らを傍に置き、一方彼らは家族妻子ともどもここに住んでいる」(フロイス『日本史』)。城では連歌が行われ、三好氏の祖先である源義光の祖霊が祀られた。永禄 4 年(1561)の「飯盛千句」では、連歌に畿内の名所が詠み込まれ、あたかも城から見渡せる眺望そのもの。

→畿内を掌握する権力による政治・文化・宗教の場に相応しい施設が存在。芥川城の主郭の発掘調査では、東西 6.57m 以上、南北 3.9m 以上の礎石建物が検出。床を張った四つ以上の部屋があり縁が廻る。弘治 2 年(1552)正月に芥川城で三好義興や松永久秀の「陣所」が火事に遭った際、醍醐寺(京都市山科区)の金剛輪院殿御厨子所の建物が移築。

○なぜ長慶は城を移ったのか

長慶が芥川城から移ったという点で飯盛城は「異色」。木沢長政が先例の一方で、大名が居城を動かすという事例は珍しい。ここに三好本宗家の意図と画期。

①飯盛城から約 4 km 以内には、舟運の発着点である三箇(大阪府大東市)、街道の交点に位置する砂・岡山と田原(大阪府四條畷市)という交通に関わる集落。長慶被官の三箇

氏、結城氏、田原氏の拠点であり、彼らはキリシタン。

→彼らの拠点は、発達した大阪平野の寺内町や港町を結ぶ交通網に結節。城から距離を置くものの、登城者(キリスト教の宣教師)が利用するなど「城下町」的な運用。被官や宗教を介した都市支配に加え、山城自体を「都市ネットワーク」の中に位置付け。

②畿内の合戦は、2派に分かれた勢力が国支配の本拠を争奪する構図。勝者は、本拠点たる平野部の城郭を確保し、敗者は山間部で地元勢力(土豪ら)を巻き込んで体制を立て直す(軍事的後背地)。合戦は国の範囲を超え、本拠と後背地の間の境目に軍事的緊張。この結果、城郭の分布は、城郭の数か少ない本拠、軍事的な発達を遂げた山城が多い境目、土豪たちによる小さな城が多数成立する後背地の別にパターン化。

→飯盛城を核とするような城郭分布はみられない。三好政権が地元勢力に「依存」せずとも大規模な合戦を遂行し得たことを示唆(「兵農分離」)し、以降の勢力拡大とリンク。守護の「スキ」を突き、国の枠組みを超えて軍勢を動かした木沢長政を踏襲か。飯盛城に長慶が入った同時期に、大和の信貴城に松永久秀が入る。この城も大和・河内国境に近い木沢長政の城。

○芥川城と飯盛城はどこが違うのか

長慶が飯盛城に移った後、芥川城は息子の三好義興が受け継ぐ。芥川城の機能は全く飯盛に移ったのかと言え、そうではない。飯盛城は最高権力者のいる城、芥川城は政権の所在地。織田信長の安土城と織田信忠の岐阜城、徳川家康の駿府城と徳川秀忠の江戸城のような関係か。

→信長と家康の没後、安土城と駿府城は政治上の重要性を失っていく。永禄11年(1568)、足利義昭を伴って上洛を目指す織田信長は芥川城を攻めて入城。畿内の要人らと対面し、抵抗勢力を服属させた後に上洛。直前の芥川城には、三好三人衆の三好長逸と細川昭元が。飯盛城は天下人・長慶の居城、芥川城は細川晴元以来の中央政権(天下)の所在地というイメージ。

4 おわりに

【主な参考文献】 天野忠幸 2010『戦国期三好政権の研究』(清文堂出版)、天野忠幸 2014『ミネルヴァ 評伝選 三好長慶 諸人之を仰ぐこと北斗泰山』(ミネルヴァ書房)、中西裕樹 2015『大阪府中世城館事典』(戎光祥出版)、石井伸夫・重見高博編 2018『三好一族と阿波の城館』(戎光祥出版)、など

歴史遺産を活かしたまちづくりの新しいネットワーク

ー共同する市民・研究者・「お商売人さん」・行政ー

小林義孝 (摂河泉地域文化研究所)

戦国時代の山城である飯盛城跡（大阪府大東市・四條畷市所在）については、いろいろな立場の市民、商工会議所や商店街など地元根を張る人々とともに活動するなかで、まちの象徴として飯盛城が周知されつつある。「行政が突出するのではなく、市民が主体的にかかわっていることが、整備後の活用にとって重要である」（中井均氏）。

城が所在する飯盛山は大阪市近郊のハイキングのとして著名であり、訪れる人も多い。「山城でこれほど訪れる人の多い城跡はほかにない」（中井氏）。地域観光の場としても今後「開発」できる可能性をもつ。

このような認識を共有できるようになるのに13年間。本報告では、その歩みを整理する。

しかし、この活動の初期には、地元自治体職員の市民に対する「上から目線」にたじろいだことも。

1. 飯盛城跡とは

- ⇒〈天下人〉三好長慶、〈首都〉河内飯盛城より天下を制す
- 飯盛山の尾根筋に立地（最高所は標高314m） →大阪府大東市、四條畷市に所在
- 1560年、近畿の三好氏の勢力範囲を抑える目的で
 - 山頂から視界270° →領域を睥睨⇔見上げる領民
- 最大規模の中世の山城（→規模が大きい、高所に立地）
- ⇒信長を先駆ける三好長慶
 - 信長以前の20年間政権を握る
 - 室町幕府の将軍の権威を無化
 - 「二本社制」、二つの首都（政治と経済）、移動する本拠
 - 禅宗（大徳寺派）、法華宗（日隆門流）、キリシタンのネットワーク

2. “何もない”大東

- ⇒市制施行62年 →人口3.5万から12.5万
 - 住道町、四条町、南郷村が合併
 - 大都市大阪の衛星都市として東から →歴史性のない市の名
 - 平成の大合併で生まれた多くの自治体と同じ →「意味不明」な名前
 - 「暗い、汚い、何もない」（市民のイメージ） ←大東水害のイメージが強い
- ⇒下水道が完備、鉄道などのインフラも整備 ⇒しかし「何もない」
- ⇒新しい市のイメージを担う〈天下人〉三好長慶と〈首都〉飯盛城

3. 最初は失敗！！（2008 年）

- ⇒平野屋新田会所 →大和川付け替えて生まれた新田の会所のひとつ →大坂商人による文化
- ⇒平野屋新田会所を考える会 →深野池の新田会所 →平野屋新田会所の保存を目指す
 - 会所は、バブル崩壊により競売の対象
 - 講座、見学会やシンポジウムを開催し、広く問題を喚起
 - 後ろ向きの市と職員「私たちに頼っているから、まわりで騒がんとくれ」（市職員）
- ⇒市民による国への保存要望
 - ただちに国史跡指定の内示 →数少ない近世の農業遺跡（市民の運動としては〈あがり〉）
- ⇔しかし業者との価格交渉まとまらず →破壊
 - 「前代未聞」（文化庁）
- ⇒市長選挙の論点
- ◆市民にも行政にも多くの問題を残す
 - この問題が広く市民に周知されていたか？（運動の限界）
 - 跡地の 1 割を市単費で買収

4. 飯盛城シンポジウム（関西城郭サミット）から

- ⇒2010 年の飯盛城シンポ
 - 第 1 回は日本万国博覧会記念機構の助成金（50 万円）
 - 第 2 回以降は大東市の提案公募型委託事業（30 万円・第 6 回まで）
 - シンポ、見学会の開催、パンフレット、シンポ資料集の作成
 - 行政が実施するよりも高い費用対効果（→市民団体の柔軟性）
- ⇒2016 年までに 7 回開催 →摂河泉地域文化研究所が主催
 - 〈天下人〉三好長慶、〈首都〉飯盛城、キリシタンの聖地
 - 市民に浸透 →まちのイメージの形成
 - 市民の前で新しい認識や研究成果が生まれる
 - 雑誌『大阪春秋』の特集号、成果の書籍化（『飯盛山城と三好長慶』、『戦国河内キリシタンの世界』など）
 - 専門研究者のネットワーク
- ⇒「大東市長の初夢」
 - 2014 年の年頭に飯盛城の国史跡指定を目指すことを表明 →行政機関の始動
 - ⇔「指定まで 30 年は、実現不可能」（四條畷市議会での文化財担当者の答弁）
 - 府教委・文化庁との調整、市議会、府議会との調整
 - 調査専門委員会の設置（2015 年度）→調査専門委員はシンポから
 - 指定のための調査の開始（2016 年度） →2019 年度の国史跡指定を目指す

5. 市民への広がり

- ⇒市民の動き
 - ボランティア・ガイド、三好長慶を顕彰する団体
- ⇒「お商売人さん」

- 商業連合会が飯盛城に三好長慶のアドバルーン
- 「春風亭昇太師匠と中井均教授の落語とお城トーク」
 - 商工会議所と摂河泉地域文化研究所と大東市が主催
- ⇒朗読劇「蘆州の人」「河内キリシタン列伝」
 - 大東市、大阪ガスの事業、市内で公演、ラジオ放送
- ⇒「首都・飯盛城」という言葉が市民の口に上り、チラシやポスターに

6. 報告者の立場

- ⇒市民の摂河泉地域文化研究所
 - 地域の歴史や文化の調査・研究
 - 成果としての出版
 - シンポジウム、講演会、見学会で広く共有
 - 市教育委員会、生涯学習センター（指定管理）と共催の講座やシンポ
 - 研究者や情報を集約 →シンクタンクの役割 →ネットワークの結節点
- ⇒行政機関との関係
 - 「諸要求運動」は行わない
 - 行政に必要なことは要望・要求
 - 実現しても要求したものの成果にはしない
 - それぞれ独自に活動する
 - 国家と行政機関も市民団体もそれぞれ独自な自立した存在！！

〈出版した書籍・雑誌〉

- 仁木宏・中井均・中西裕樹・摂河泉地域文化研究所編『飯盛山城と三好長慶』
（戎光祥出版 2015 年）
- 天野忠幸・高橋恵『三好長慶 河内飯盛城より天下を制す』（風媒社 2016 年）
- 神田宏大・大石一久・小林義孝・摂河泉地域文化研究所編『戦国河内キリシタンの世界』（批評社 2016 年）
- 『大阪春秋』149 号 「特集：飯盛山城と戦国おおさか」・（2013 年）
- 『大阪春秋』167 号 「特集：大東一かつてこの地は〈首都〉であった」（2015 年）
- 『大阪春秋』165 号 「特集：いまよみがえる三好長慶の世界」（2017 年）
- 『大阪春秋』167 号 「特集：新田開発と新田会所」（2017 年）
- 『大阪春秋』169 号 「特集：キリシタンたちの戦国おおさか」（2018 年）

